

カンボジアの環境活動家に対する有罪判決

2024/07/04

国連人権高等弁務官事務所

本日、国連の独立専門家たちは、カンボジアにおける環境活動家 10 人に対する判決は、同国で正当に活動している人権擁護者に対する不寛容を示していると述べ、これら有罪判決は、カンボジアにおける市民スペースを狭め、反対意見を取り締まるための国家政策の一環と思われる懸念を示した。2024 年 7 月 2 日、プノンペン第一審裁判所は、カンボジアの自然環境の保護と保全を提唱し、それらを守ろうとする地域コミュニティを支援しているマザーネイチャーカンボジアの環境活動家 10 名に対し、懲役 6 年から 8 年の実刑と罰金刑を言い渡した。有罪判決を受けた活動家のうち 6 人は申し立てられている犯罪が起きた時点では未成年であった。専門家たちは、不敬罪の適用や刑事法などの法律を慎重に見直すよう政府に促した。専門家には、カンボジアの人権に関する国連特別報告者のヴィティト・ムーンターボン、意見および表現の自由に関する国連特別報告者のイレーネ・カーンが含まれる。

拷問等禁止委員会第 80 会期開幕

2024/07/08

国連人権高等弁務官事務所

拷問等禁止委員会第 80 会期が今朝開幕した。今会期では、条約締約国であるコートジボワール、エクアドル、韓国、トルコの報告書審査が行われる。人権高等弁務官事務所の 人権理事会・条約機関部、反拷問・調整・能力構築と基金課チーフの Antti Korkeakivi は冒頭で、拷問等禁止委員会・拷問防止小委員会・拷問に関する特別報告者・拷問被害者支援基金が 6 月 26 日の「拷問被害者を支援する国際デー」で出した加害者の説明責任と拷問被害者の正義を求めた共同声明を歓迎した。また、国連の資金流動性の危機など厳しい状況があるにもかかわらず、委員会がその役割の遂行に引き続き尽力していることに感謝を表した。最後に、拷問等禁止条約採択 40 周年の記念すべき年とそれ以降の委員会の活動に対する強い支持を表明し、今会期における委員会の成功を祈った。

人権高等弁務官、ウクライナの病院や女性、子どもへのミサイル攻撃を非難

2024/07/08

国連人権高等弁務官事務所

国連人権高等弁務官のヴォルカー・タークは、本日、ロシア連邦がウクライナの人口密集地域に行った致命的なミサイル攻撃を非難した。そのなかには、キエフにあるウクライナの子どもと女性のための2つの主要な病院と、重要なエネルギーインフラ設備も含まれていた。ウクライナ当局は、少なくとも34人が死亡、127人が負傷したと報告した。

「ウクライナ最大の小児病院であるオクマトディト病院の集中治療室、外科病棟、ガン病棟に深刻な損害を与え、子どもたちが透析を受ける小児毒物科を破壊した」と人権高等弁務官は述べた。「忌まわしい出来事だ。私は影響力を行使できる人々に、このような攻撃を直ちに停止させるよう全力を尽くすことを強く願う」と述べた。また、「民間人は守られなければならないし、戦争法は厳格に守らなければならない」、「民間人と民間のインフラに対するこの重大な攻撃について、迅速かつ徹底的で独立した調査が行われなければならない」と述べた。

人権委員会 インド報告書審査

2024/07/12

国連人権高等弁務官事務所

インドの定期報告書の審査において、自由権規約委員会（人権委員会）の委員は、国会の議席の3分の1を女性のために確保するという留保法案を前向きであると評価した。そのうえで、この法律は2029年の施行予定だが、なぜそれほど時間がかかるのか、締約国は女性の政治参加をどのように促進するのか、と問うた。別の委員は、宗教的マイノリティに対する暴力について言及した。2022年、マディヤ・プラデシュ州政府は、イスラム教徒が所有する300以上の建造物をブルドーザで破壊した。中央政府はそれら行為をどのように防ぎ、暴力の調査をどのように行うのかと尋ねた。インド代表団のヴェンカタラマニ氏は、閉会の挨拶で、インドは自由権規約の国内実施に尽力しており、すべての人権の実現を目指していると述べ、すべての人が可能性を実現できる社会を構築する決意であると結んだ。最後に、規約委員会委員長は、今回の審査では、女性に対する暴力、非差別、生命への権利、死刑、拷問、表現と集会の自由、マイノリティの権利などが取り上げられたと述べた。前回審査から27年、この広大な国が直面するすべての問題をカバーすることは大きな挑戦であったが、委員会メンバーは最善を尽くしたと述べた。

拷問禁止委員会 トルコ定期報告書審査

2024/07/18

国連人権高等弁務官事務所

トルコ審査の国別共同報告者である前田直子委員は、トルコの定期報告書の審査において、女性に対する暴力と闘い、ゼロ・トレランスの原則を堅持する締約国の積極的なコミットメントを歓迎した。同じく国別共同報告者の Bakhtiyar Tuzmukhamedov 委員は、終身刑や加重終身刑の服役条件について、詳しい情報提供を求め、別の委員は終身刑を宣告された人の数は 2016 年から 2022 年の間で 40% 増加したことを指摘した。また、被拘禁者の面会は近親者に限られ、電話の使用は 15 日に 1 回、10 分間のみ許可するという法令のもと、制限されているという報告があった。被拘禁者が家族との接触を維持する権利を確保するためにどのような措置が取られたのか、現在も実施されているのか、と尋ねた。審査の総括所見は委員会の今会期終了日の 7 月 26 日に発表される。

イランの人権状況に関する特別報告者

2024/07/22

国連高等弁務官事務所

イランの人権状況に関する特別報告者 Javaid Rehman は 7 月 31 日の任期満了を前にした最終報告として、1981 年から 1982 年にかけて、そして 1988 年の間に行われた即決、恣意的、超法規的処刑という「残虐犯罪 (atrocities crimes)」は、殺人と絶滅の人道に対する犯罪のみならず、ジェノサイドにも相当すると述べた。処刑された者の中には、処刑前にレイプされた者も含む女性や、多くの子どもたちもいた。これらの人道に対する罪には、投獄、拷問、強制失踪も含まれていた。最終報告書には、調査機関は国際法の下、公平かつ透明な調査を行い、さらなる刑事訴追を目指して証拠を残すべきであるとの見解が含まれている。イラン政府は「残虐犯罪」を否定し続け、加害者は裁かれていない。特別報告者はこの問題に関してイランと連絡を取り合っている。

拷問防止小委員会が第 17 回年次レポート

2024/07/23

国連高等弁務官事務所

今朝、拷問防止小委員会が第 17 回年次レポートを拷問禁止委員会に提出した。拷問防止小委員会は 2002 年の拷問等禁止条約の選択議定書によって設置され、国内機関との協力で、国内抑留場所を調査する役割を担っている（注：国際連合広報センターより）。2023 年に小委員会はフィリピン、ジョージア、グアテマラ、パレスチナ、クロアチア、マダガスカル、カザフスタン、南アフリカに公式訪問をした。2024 年、小委員会はすでにガボン、アルバニア、ホンジュラス、モンゴルへ訪問している。年内にはボリビア、コンゴ共和国、ギリシャ、ナイジェリアへ今後訪問する予定である。その後の討議で委員会専門家たちからは、非常事態や武力紛争をもたらす委員会の活動への影響や、各国に透明性の原則にコミットするよう促す方法について質問があった。拷問禁止委員会は 7 月 23 日（火）午後 4 時から、第 19 条と第 22 条および報復に関するフォローアップ討議のため、会合を開く予定である。

人権委員会第 141 会期閉幕

2024/07/23

国連高等弁務官事務所

自由権規約委員会（人権委員会）は本日午後、クロアチア、ホンジュラス、インド、モルデ
ィブ、マルタ、スリナム、シリアの報告書に関する総括所見を採択し、第 141 会期を閉幕し
た。すべての審査において、委員会は前向きな進展を指摘し、懸念を特定し、勧告を出した。
また同会期中、委員会はチャドに関するリストオブイシューおよびオーストリア、コスタリ
カ、コートジボワール、シエラレオネに関する 4 つの事前リストオブイシューを採択した。
さらに、63 件の個人通報に関する決定も採択した。そのうち、53 件は本案で決定され、10
件は受理不能となった。本案で決定された事案のうち、51 件は規約違反であると認定した。
第 142 会期は 10 月 14 日から 11 月 8 日に開催され、エクアドル、フランス、ギリシャ、ア
イスランド、パキスタン、トルコの報告書審査が行われる。また、ラトビアに関するリス
トオブイシューおよびベナン、カメルーン、モナコ、ポーランド、スロベニア、南アフリカに
関する事前リストオブイシューも採択する予定である。

人権高等弁務官、バングラデシュ政府を非難、国際人権基準の遵守を促す

2024/07/25

国連人権高等弁務官事務所

国連人権高等弁務官ヴォルカー・タークは本日、バングラデシュ政府に対し、恐ろしい暴力の証言が次々と報告されるなか、先週同国でおきた抗議デモに対する弾圧の詳細を即時明らかにし、国際人権規範・基準に則った法執行の活動を行うよう求めた。最新の報告によると、政府の政策に反対する学生や若者の抗議行動により、170人以上が死亡し、1000人以上が負傷した。少なくとも2人のジャーナリストが死亡し、数十人が負傷したと報じられている。また、野党関係者を含む数百人が逮捕されたとも報じられている。人権高等弁務官は、「多数の人が政府関係者といわれているグループから暴力的な攻撃を受けた。一方、その人たちを守ろうとする試みはなかった、そう私たちは理解している」と述べた。ターク高等弁務官は政府に対し、ジャーナリストや報道機関を含めすべての人に対して、インターネットへのアクセスを全面回復するよう求めた。さらに弁務官は、政府は殺された人、負傷した人、拘束された人に関する詳細を家族に対して提供しなければならないと付け加えた。

米国：キャンパスにおいても表現の自由は守られるべきだ

2024/07/25

国連人権高等弁務官事務所

本日、国連の人権専門家たちは、全米の大学における学生たちのパレスチナ支持の抗議行動への大規模な弾圧に対し、重大な懸念を表明した。「学生の抗議を禁止したり、攻撃することは、国際人権法が保障する平和的集会と表現の自由に対する重大な侵害であり、直ちに停止しなければならない」と、一人の専門家は述べた。全米の学生たちは、パレスチナ市民との連帯を表明し、紛争と占領から利益を得ている企業と大学の産学提携に反対するため、校内でテントを張り、平和的な抗議行動を組織している。多くのテントは、大学当局の要請により警察が撤去したが、なかには武力行使により負傷して入院したデモ参加者もいる。これは行き過ぎた行為であり、法的正当性を欠く。人権専門家たちは、「学生たちが基本的人権を行使したことで罰せられたり、不当な扱いを受けたりすることがないように、大学当局に強く求める」と述べ、退学処分を受けた学生たちが夏休み明けに再入学できるよう求めた。

レイシズムとA I : 過去の偏見は未来の偏見につながる

2024/07/30

国連人権高等弁務官事務所

人種差別に関する国連特別報告者は、「生成A I（人工知能）の最近の開発と急増するその応用は、人種差別など、重大な人権問題を提起し続けている」と述べた。国連人権理事会第56会期で、この問題に関する報告書を発表したアシュウィニ・K・P特別報告者は、長い間信じられてきたテクノロジーは中立で客観的だという思い込みは有害であると述べた。「生成A Iは世界を変えつつあり、今後さらに激震となるような社会的変化をもたらす可能性がある」、「私は、様々な分野でA Iの応用が急速に広がっていることを深く憂慮している」、「警察による予測的取り締まりは、人種や民族にもとづく集住地区が歴史的にうけてきた過剰な取り締まりを、さらに過剰にさせる可能性がある」と述べた。特別報告者の調査によると、位置情報ベースの予測的取り締まりアルゴリズムは、場所、出来事、過去の犯罪データの間のリンクを利用して、犯罪がいつ・どこで起こりうるかを予測し、警察はそれに従ってパトロールを計画することになる。